教材名 「大人になれなかった弟たちに……」単元名 「朗読を通して文学作品を味わおう。」

指導事項

第一学年 C読むこと オ

文章に表れているものの見方や考え方を理解し、 自分のものの見方や考え方を広くすること。

言語事項 (1)

話す速度や音量、 言葉の調子や間の取り方などに注意すること。

一 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度 /	イ 読むこと	ウ言語についての知識・理解・技能
① 音読・朗読を通して、作品 ①	① 朗読の工夫を通して、人①	① 話す速度や音量・言葉の調子や
に関心をもち、級友と協力し	物像や気持ちに迫ってい	間の取り方に注意して読もうとす
て読もうとしている。	る。	る。
	② 文章に表れているもの	
	の見方や考え方を理解	
	し、自分のものの見方や	
	考え方を広くする。	

三 単元について

- おいて人物の気持ちを考え、作者のものの見方を理解し、深い読みが期待できること、自分の見方や考え方方に注意すること」が位置付けられる。本単元で行う文学作品を朗読する活動は、朗読の工夫をする過程に 自分のものの見方や考え方を広くすること」、言語事項(1)ア「話す速度や音量、言葉の調子や間の取り ものとなっている。 動例から見ると、C読むこと をふり返り、色々なものの見方があることに気付いたり、共感したりできると考える。このことは、言語活 本単元の指導事項として、第一学年 の配慮事項 C読むこと オ「文章に表れているものの見方や考え方を理解し、 エ(イ)「必要に応じて音読や朗読をすること」を具体化した
- \bigcirc に表れた心情や情景描写などに注目して読むことを楽しんで行い、説明文「ちょっと立ちどまって」におい は少ないだろう。 たりすることにも課題がある。また、自分がどのように人物やものごとを見ているかを客観的に考えた経験 ては、様々なものの見方があることに気付いた。しかし、文章の表面上の理解にとどまり、作者の心情や思 ている。よって音読への抵抗はなく自主的・積極的である。また、「にじの見える橋」では登場人物の行動 いを理解したり共感したりすることは苦手である。文章の表現や級友の発表について共感したり意見をもっ 生徒は、 一学期より、「野原はうたう」の朗読会をはじめ、どの教材でも班での音読と全員音読を経験し
- 手の見方で読取りができるようにさせたい。様々な読み取り方があることに気付いたり、級友の感じ方に共 く作業を通してもの 人物像や心情について考えを深めさせる。その手段として、朗読を工夫する過程で、主観的見方から、書き)のの見方とはどんなものかを体験させる。次に、文章中の人物について、僕のとらえた様子を見つけさせ、以上の点から、だれもができる音読・朗読を活用して文学作品の読取りを行う。指導にあたっては、先ず、 作業を通してものの見方の変容を感じさせたい。したりできるように、自分で考える活動と話合いや発表の活動を取り入れたい。 最後に、 自分の考えを書

五 本時 本時の具体の評価規準・評価方法 第一学年〇組教室(4/6)年 平成二十年十月一日(水)五校時 第一学年〇組教室(4/6)

関:友だちと協力して、朗読の練習をしている。読:朗読の工夫を通して、人物像や気持ちに迫っている。

発表

ワークシート5・6

様相チェック

2 資料等

ワークシート5・6 発表用気持ちカード 手順を書いた用紙

3 本時の指導計画・評価計画

	まとめ																								展開							導入	過程
聞く。	5 本時のまとめと次時の予告を							・読み合わせをする。	・個人練習をする。				朗読の工夫について話し合う。	・場面や人物の気持ちを考え、	4 班で朗読の練習をする。						り、自分の考えと比べたりする。	し、班員の意見を参考にした	・自分の考えた気持ちを発表	合う。	3 どんな気持ちで読むかを話し		「班で協力して練習しよう」	ちに迫ろう。」	「朗読の工夫をして、人物の気持	2 本時の目標を確認する。		1 前時の学習を想起する。	学習活動・内容
・意欲と期待感を持た			の助言をする。	き込ませ、分担や朗読	に班で決めた工夫を書	・班をまわり、cの生徒	④個人↓読み合わせ↓微調整	③分担する。	②輪読して確認する。	ト6に書き込む。	①朗読の工夫をし、ワークシー	る。	・練習の手順を説明す	をかける。	が発表できるように声	・班をまわり、cの生徒	る。	気持ちカードに書かせ	ークシート6と発表用	・話し合った結果をワ	ようにさせる。	気持ちをきいてもらう	・班員に自分の書いた			る。	クシートを確認させ	・班ごとに必要なワー		の確認。	場面を決めていること	・前回の学習で朗読の	指導上の留意点
		習をしいる。	関:協力して朗読のて練		シートに加えている。	A自分の読みの注意点を		を書き込んでいる。	B班で決めた朗読の工夫		ている。	工夫するところを指摘し	A場面や心情を読み取り		読み方を考えている。	B場面や心情を読み取り		る。	を付け加えたりしてい	意見に賛同したり、考え	を発表したり、友だちの	A担当する人物の気持ち		を発表している。	B担当する人物の気持ち								評価規準
	一斉														班										班							一斉	形態
	5														25										15							5	配時

四 単元の指導計画・評価計画

第一学年 単元「文学作品を朗読しよう」「大人になれなかった弟たちに……」 6時間

指導事項 1年c読オ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること。

言(1)ア 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意すること。

単元の評価規準 ○音読・朗読を通して、作品に関心をもち、友だちと協力して、読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)

○朗読の工夫をする中で、人物像や心情に迫っている。 ○文章に表れているものの見方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くしている。(読むこと)

○話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意して読もうとしている。(言語についての知識・理解・技能)

	具体の評価規準	学習活動	指導上の留意点	(関心・意欲・態度)	(話す・聞く, 書く, 訪	売む,知識・理解・技能)	
配時	<評価の方法>	<言語活動>			おおむね満足できる状況		☆Cの生徒への手だて
					[B]	[A]	
1	読:自分の家族や戦争について、自分が思っていることを書いている。 <ワークシート1>	て、自分のとらえ方を確認する。	 作品を読む前に、自分のとらえ方を体験させる。 太平洋戦争中の写真や平和学習でまとめた資料を提示し、参考にさせる。 	に取り組もうとしている。 ・ 戦争中の様子を知り、戦 争や平和について考えよう としている。	て,書いている。	自分の家族や戦争について、考え、文章で書いている。	自分の家族のことを自分がどう思っているかを書くように補足する。一言で言うならという形で書かせてみる。
		2 学習のめあてを確認する。	朗読発表があることを知らせ、意欲をもたせる。				
2	読:登場人物や当時の生活 や家族の状況をとらえ ている。 <教科書チェック> <ノートチェック>	1 戦争中であることがわかる言葉に印をつけながら読み,家族の様子や状況,気持ちを想像する。	ワークの資料部分を使い、 戦時下の生活について、確認 させる。	・ 戦時下の生活がわかる言 葉を積極的に,見つけ発表 しようとしている。		・ 戦時下の生活がわかる 言葉を的確に見つけ、家 族の状況や気持ちを想 像している。	

3	読:僕から見た人物の様子	1 僕がとらえた人物の様子	・ 登場人物ごとに担当を決め	・ 担当した人物の様子を積		子どもを守ろう	表情や行動から子ども	・級友の発表をきいて、
	をとらえて, 人物像や心	を見つけて、書き出す。	て,各人物について読み取ら	極的に探し出し、発表しよ	母	という必死な気持	を守ろうとする必死な思	自分が印をつけて
	情を考えている。		せる。	うとしている。		ちがわかる。その記	いや守り得なかったつら	いなかった部分をつけ
	<教科書チェック>					述がある。	い思いをおさえ, 書いてい	させる。
	<ワークシート5>						る。	
			ワークシートに印をつけた	・ 僕の立場で人物の気持ち		母や弟への思い	母や弟への思いや戦争	気持ちのポイントと
		2 気持ちが表れている部分	表	を想像しようとしている。		を想像し, その記述	に	
		や人物像がわかる部分に印	ワークシートに印をつけた			がある。	対する思いが僕の体験と	気持ちのポイントと
		をつけて読み取る。	表現について気持ちを書か		僕		通じていることをおさえ,	なる部分を書き出して
			せる。				書いている。	おき、考えさせる。
						親せきやその他	親せきやその他の人た	・挿絵や絵本を見せて
					弟	の人たちの気持ち	ちの気持ちを読み取り, 弟	気持ちを想像させたり,
			ワークシートは担当者ごと			を想像し, その記述	の死は何を伝えているの	担当が同じ人と相談さ
			に違うものを準備する。		他	がある。	かをおさえ, 書いている。	せたりする。
4	読:朗読の工夫をする中	1 それぞれの人物の気持ち	・ 全体や必要に応じて班をま	・ 担当する人物の気持ちを	•	担当する人物の気持	・ 担当する人物の気持ち	・ 担当する人物の気持
	で,人物の心情に迫って	や場面の雰囲気を考え, どん	わり、手順を理解させる。	積極的に発表したり、班員	t	らを発表することがで	を発表したり, 班員の発	ちを発表させる。
本	いる。	な読み方をすれば気持ちが		の意見を聞こうとしたりす	き	きる。	表に対して,自分の意見	
	<ワークシート6>	表れるか話し合って, 朗読の	・ 最初に分担をさせず、全員	る。			を付け加えたりしてい	・話し合った朗読の工
時	関:班で意見を出し合い協	工夫をする。	の朗読の工夫を書かせる。		•	場の雰囲気を読み取	る。	夫を書き込ませる。
	力して朗読の工夫をし	班員の意見を聞いて自分			Ŋ),読み方を考えてい	・ 場の雰囲気をとらえ朗	
	ている。	の考えと比べる。			Z	5 .	読の工夫を提案してい	
	<様相チェック>		ワークシートは班によって				る。	
			違うものを準備する。	・ 積極的に声を出し、読み		工夫した読み方で練	・ 自分の読む部分につい	・聞こえる声で読めて
		2 分担をし、工夫を生かした		の練習をしている。	翟	習している。	て再度自分なりに検討	いるかを教える。
		読みの練習をする。					して書き込んでいる。	

				П	T	1	
5	読:他の班の人物の心情の	1 班で練習をする。		・ 班員と協力して朗読して	・確認した朗読の工夫	・ 確認した朗読の工夫を	
	とらえ方について考え	2 発表会をする。	聞き方のマナーを確認す	いる。	に従って読んでいる。	行って読んでいる。	
	ている	人物の分析を生かした朗	る。	聞き方のマナーを守り、		・ 他の班の朗読を聞いて	・ 他の班のよかった
	<評価表>	読をしたり, 他の班の人物の		関心をもって聞いている。	・ 他の班の朗読を聞い	とらえ方の違いや共感	と思うところを書か
	言:話す速度や音量,言葉	気持ちのとらえ方に注意し		・ 評価表を丁寧に書いてい	てとらえ方が違うこと	したところを書いてい	せる。
	の調子や間の取り方に	て聞く		る。	がわる。	る。	
	注意して読もうとして	3 評価表を書く。					
	いる。		・ 各班に評価を与える。				
6	読:作者の思いを想像し,	1 作者の思いをまとめ、自分	1次に書いた家族について	・ 積極的に自分の思ったこ	違う見方もあること	自分のとらえ方をふり	・ 学習の感想を書か
	自分のもののとらえ方	の考えを書くことから、自分	のとらえ方のシートを渡し、	とを書こうとしている。	に気づき, 自分のとら	返ったり, 友だちのとら	せる中で,再度家族
	の変容を感じている。	のとらえ方をふり返る。	比較させる。		え方が広くなった記述	え方や発表を聞いて,自	について考えさせ,
	<ワークシート7>				をしている。	分のものの見方をさら	様々なとらえ方があ
						に, 広げていこうという	ることを知らせる。
	関:文学作品を朗読する学	2 学習をふり返り,感想をも	・ 学習全体をふり返り自分の			意識をもっている。	
	習を通して作品を深く	つ。	学習のまとめ, 感想を書か				
	味わうこと知り, 様々な		せ、今後の課題をもたせる。				
	意欲をもつ。						